
【首無しライダー】

鵜野森鴉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【首無しライダー】

【Nコード】

N6606G

【作者名】

鵜野森鴉

【あらすじ】

初めて買った車で青春を謳歌する走り屋たちに伝わる恐怖の伝説。

この物語はフィクションです。

登場する人物・施設等は全て架空のもので、実存するものとは何ら関係ありません。

実際の運転は、マナーを守り安全運転を心掛けましょう。

【首無しライダー】

神奈川県と静岡県の境にある、ある峠道に昔から伝わる噂がある。
真夜中にその峠を一人で走ると、首無しライダーが乗る単車が追いかけて来て、

抜かれた瞬間に谷底へ落とされるという噂だ。

その峠は、昼間はすごく景色が良く観光客もたくさん通るが、夜になるとその

表情はガラリと変わる。

外灯がひとつも無い、真っ暗な闇に「死亡事故現場・注意」と書かれた看板が、

ヘッドライトに照らされて不気味に浮かび上がるのだ。

しかも、いったい何枚あるのか判らないくらい、無数に立てられている。

その夜も、御殿場から乙女峠経由で山を上がって来た連中が、湖畔でタバコ

を吹かしながら、その峠の話をしていた。

「先週あその峠でまた落ちたんだってよ」

「マジかよ、今年に入って3台目だぜ」

「そのうちに通行禁止にでもなっちまうんじゃないの」

「それはないべ、そんな事になったら 温泉の客は陸の孤島だ」

「それなら、取締りが厳しくなる前に走っておこうぜ」

「あーそうだな、年末の一斉検問で20人くらいパクられたって話だ」

彼等はこの辺一帯をホームコースとする自称・走り屋だ。

フィルターぎりぎりまでタバコを吹かし終えると、それぞれの車に乗込み、

一斉にエンジンをスタートさせた。

爆音マフラーのせいで、霧に覆われた湖の空気がビリビリと震えている。

先頭からタケ、テツ、アツオ、グツサン、しんがりはケンヂ。

「ゴフツ、キュキュキュー」スキル音を上げて山頂を目指した。

じきに山頂だという一本道で、しんがりのケンヂは目を疑った。

小学生くらいの女の子が、一人で歩いているのが見えた。

「えっ、ウソだろ。こんな時間に、こんな所を一人でなんて…」

バックミラーで確認しようとしたが、もう見えなかった。

「何か悪い予感がする…」

ケンヂは背中に冷たい何かを感じていた。

ケンヂは人一倍霊感というか第六感が強く、これまでに何度かそれらしきモノ

が見えたり、金縛りにあったりした経験があった。

仲間達は、そんなケンヂの話を信じようともせず、馬鹿にしていたが、ケンヂ

は自分の第六感に自信を持っていた。

頂上のT字路を左折すると、いよいよあの峠に入る。

ケンヂは兎に角一人きりにならないようにグツサンの後ろを走った。だが今夜のケンヂのトレノは機嫌が悪く、多用する2速4千回転付近で、メンテ

をサボっていた4-A Gが、まったく吹けなくなる。

どんどんグッサンとの間隔が開いてゆく。

ケンヂは必死にパッシングで合図を送るが、グッサンは煽られていると思い込

んでしまつて、益々スピードを上げてしまふ。

とうとうケンヂの視界に、仲間のテールランプは入らなくなった。

車を路肩に止めて、仲間が戻ってくるのを待てばいいのに、そんな機転も勇気

も、今のケンヂには無かつた。

「やべえ、どうしょ」

「おつかなくて、バックミラー見れないよ」

恐怖で全身から嫌な汗が噴き出してくる。

次の右ブラインドコーナーには、この峠唯一のお茶屋があり、横断歩道がある

のだが、ケンヂの脳内は首無しライダーに支配されていた。

一瞬減速が遅れ、テールが流れた状態でブラインドコーナーに進入したとき、

そこにはさつき見た女の子がっ!!

「どわー! どいてくれー!!」

スライド中に急減速したケンヂのトレノは、オツリをもらつて大きく反対側に

振りつ返した。

そしてそこには例の看板と途切れたガードレールが、大きく口を開けてトレノ

を飲み込もうとしていた。

病院のベッドでケンヂは目を醒ました。麻酔が切れたのだらう。下腹部に刺すような痛みを感じるが、意識はハッキリしていた。どうやら手術は上手くいったようだ。

「昨日アイツ等と、首無しライダーの話をしたからかな」

「それにしても、すげえリアルな夢だったなア…」

昨日、ケンヂは虫垂炎のために、地元の大学病院に入院していた。
そして、手術前に走り屋仲間が見舞いに訪れて、首無しライダーの
話でおおい
に盛り上った。

でも、あの峠には本当にたくさん、例の看板が立てられている。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6606g/>

【首無しライダー】

2010年10月28日01時30分発行